

2022年度 独創的研究助成費 実績報告書

2022年 3月 28日

報告者	学科名	栄養	職名	講師	氏名	都島梨紗																													
研究課題	地域における若者のトランジション経験の変容に関する基礎的研究																																		
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担																														
	代表	都島梨紗	岡山県立大学・講師	教育社会学	研究遂行者																														
	分担者	尾川満宏 知念渉	広島大学・准教授 神田外語大学・講師	教育社会学 教育社会学	調査遂行者 調査遂行者																														
研究実績の概要	<p>本研究は、愛媛県東部（東予地域）での調査をもとに、地域の人々に経験された学校から社会へ、子どもから大人への移行（トランジション）の実態を明らかにすることを目的とした。</p> <p>本年度は、東予地域の一つである新居浜市で伝統的に行われている「太鼓祭り」に参加し、祭りという地域文化を通じた学校・労働・地域のつながりについて調査した。本調査の中間成果報告会として、3月に市民向けの報告会を現地で開催している。以下、報告会の概要を示すことで、本研究の実績とする。</p> <p>報告会ではまず、新居浜市の地域的な特徴を概観した。</p>																																		
	<p>図1：新居浜市出身者による新居浜市のイメージ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>イメージ</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自然環境が豊かなまち</td> <td>13.4%</td> </tr> <tr> <td>都市型農業が進んだまち</td> <td>1.2%</td> </tr> <tr> <td>工場等が多い工業都市</td> <td>61.0%</td> </tr> <tr> <td>福祉を重視したまち</td> <td>1.2%</td> </tr> <tr> <td>近代化産業遺産や歴史を感じるまち</td> <td>17.1%</td> </tr> <tr> <td>教育が盛んなまち</td> <td>11.0%</td> </tr> <tr> <td>スポーツが盛んなまち</td> <td>1.2%</td> </tr> <tr> <td>市民と行政が協働したまち</td> <td>1.2%</td> </tr> <tr> <td>太鼓まつりのまち</td> <td>80.5%</td> </tr> <tr> <td>環境にやさしいまち</td> <td>1.2%</td> </tr> <tr> <td>安全なまち</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>都市基盤が充実したまち</td> <td>1.2%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>2.4%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>2.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>出所) 『新居浜市出身者等意向調査報告書』、p.10 (<a href="https://www.city.niihama.lg.jp/uploaded/attachment/3994.pdf">https://www.city.niihama.lg.jp/uploaded/attachment/3994.pdf</a>、2023年3月22日最終閲覧)</p> <p>図1で示されているように、新居浜市は自他ともに認める「住友」と「祭り」の土地である。それは就職先にも顕著に反映されており、男子の高卒就職率が全国平均を上回っており、近年も上昇傾向にある。つまり、新居浜の男性を中心に地元に残って就職し、地域を支える労働者になっていく過程があるのである。</p>						イメージ	割合	自然環境が豊かなまち	13.4%	都市型農業が進んだまち	1.2%	工場等が多い工業都市	61.0%	福祉を重視したまち	1.2%	近代化産業遺産や歴史を感じるまち	17.1%	教育が盛んなまち	11.0%	スポーツが盛んなまち	1.2%	市民と行政が協働したまち	1.2%	太鼓まつりのまち	80.5%	環境にやさしいまち	1.2%	安全なまち	0.0%	都市基盤が充実したまち	1.2%	その他	2.4%	無回答
イメージ	割合																																		
自然環境が豊かなまち	13.4%																																		
都市型農業が進んだまち	1.2%																																		
工場等が多い工業都市	61.0%																																		
福祉を重視したまち	1.2%																																		
近代化産業遺産や歴史を感じるまち	17.1%																																		
教育が盛んなまち	11.0%																																		
スポーツが盛んなまち	1.2%																																		
市民と行政が協働したまち	1.2%																																		
太鼓まつりのまち	80.5%																																		
環境にやさしいまち	1.2%																																		
安全なまち	0.0%																																		
都市基盤が充実したまち	1.2%																																		
その他	2.4%																																		
無回答	2.4%																																		

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p>こうした地域に留まる人々の楽しみの一つに「祭り」は位置づいており、新居浜市内の地区が保有する太鼓台台数も上昇傾向にある。さらに、進路形成過程においても「祭りに参加できるかどうか」は重要な指標となっており、労働の論理にも祭りの論理が組み込まれている。つまり、地域文化である「祭り」に熱中する人々が一定数新居浜に存在するのである。</p> <p>太鼓祭りの花形である「太鼓台」の運行に女性と子どもは関わる事が出来ない。そのため、こうした地域の伝統的な祭りは男性だけが熱中していると予測できる。だが、新居浜については「おなかに居る時から太鼓の音を聞いている」という語りに代表されるように、新居浜で暮らし、育ちゆく過程で太鼓祭りは欠かせない存在となっている。</p> <p>主体的に参加することができない女性についても、子育て経験を通して、次第に太鼓台に興味を持つようになる。子どもが「太鼓ごっこ」や学校での「お祭り集会」や子供会の「子ども太鼓」を通して太鼓祭りに興味を持つ過程があり、女性である母親たちも、子どもに付いていくなかで太鼓祭りの「面白さ」に親しんでいくようになる。</p> <p>ただし、自治会加入率低下の問題も近年生じてきており、祭りを通じた地域コミュニティを今後どのように維持できるのか／衰退していくのか、については更なる調査を通して継続的に検討していく必要がある。</p>
<p>成果資料目録</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイント資料：「新居浜調査報告会」</li> <li>・知念渉・尾川満宏・都島梨紗(2023)「コロナ禍の困難から考える質的調査の特質と課題：愛媛県新居浜市での調査を事例に」『社会と調査』30、(印刷中)</li> </ul>